

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いっしょに寄り添い・・・」の通り地域や沢山の方々と寄り添って生活しています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ室、厨房にほのぼのの理念を貼り、いつでも目に入るようにしています。また毎日の申し送り終了後理念を唱和しています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関に手書きの理念を掲示し、来られた方に見ていただいています。見学に来られた方にも入居申し込みやパンフレット等といっしょにお見せして理解していただいています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所が少しと遠いような気がします。立地的な問題が少々ありますが、個別処遇で自宅に帰られたり外出したときは極力声かけしたりして昔を思い出していただいています。又定期的に近所の農家の方が季節の野菜や花の販売に来られ皆さん楽しみにされています。	○ 自分達がどんどん出向いていき、日常的な付き合いが出来ればと思います。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	環境的な問題でこちらからなかなか出向いていけませんが、地域の清掃に参加させていただきます。また近くの神社で開催される夏祭りにも参加を検討しています。隣接の特養ボランティアに来られたとき出向くようにはしています。	○ まずグループホームについて地域の方々に知っていただくことから始めたいと思います。自分の身内が認知症でなければグループホームの存在を知らない方が多いのには驚きです。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	月2回のスタッフ会議では常に入居者の状況を話し合い、どんなに小さいことでも連絡帳に記録し職員全員で情報を共有しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果はきちんと報告し指摘された課題について全職員でどのように改善していけばよいか意見の交換をしています。7つの意見が出てとても参考になります。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ1回しか開催していませんが、予想以上の色々な意見が出てこれからの開催が楽しみです。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	諸手続きに向いたとき、色々な相談にのっていただいています。福祉バスや色々な便利なサービスが聞かなければわからないことが沢山あり驚いています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在入居全員ご家族がいらっしゃいますがこれからの社会のことを考えるとぜひ勉強会を設けよりその人がその人らしく暮らして行けるよう支援していきます。	○	入居者も多様化し毎日が何事も勉強です。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自分ではそうでないと思っても本人にとってはどんなことが虐待に思えるかを充分理解し介護していきたいと思えます。	○	普段何気なく使っている言葉もその人にとっては時折言葉の虐待として心に深い傷をつけてしまうかもしれない事を十分に理解した上でもう一度皆と振り返って見たいと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	きちんと本人やご家族に説明し、入院や退居の際、不安なくしていただくようしています。どんな小さな質問でも受付けています。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関の入り口に設け、誰でも意見を入れられるようにしています。またご家族及び面会の来られた方のどんな小さな意見でも聞き逃さず職員同士伝達しあい解決に向けて検討しています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られる方にはその都度、遠方にいらっしゃる方には電話で連絡しています。また、法人発行の園便りやほのぼのだよりの送付は欠かせません。		遠方にいらっしゃるご家族への金銭管理に関するノートの写しや領収書を定期的に送付するようにします。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は玄関に設置し面会に来られた方の何気ない会話の中に意見を見つけ出しています。家族会、運営推進会議でも皆さんの意見を聞きスタッフ会議で皆で検討しています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のスタッフ会議は皆の意見を聞くいい機会です。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	いつでも緊急の受診には対応しています。その時の状況にあわせて勤務変更も可能です。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の変動は少なく馴染みの職員です。半数は開設当初からの職員です。入居者も半数は開設当時から入居者です。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修はもちろん段階に応じて研修への参加を推進しています。また入居者9名の個々の特色を理解してもらったうえで働いています。	○ ケアの標準化をはかる為にもグループホーム内の研修の検討をしていきます。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市のグループホーム連絡協議会の職員研修会や他の研修会で同業者同士の意見交換をし、職場でもその情報を全職員に報告し自分たちのサービスの質の向上に生かします。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年齢も考え方も育った環境も違う人間ですからいろいろな意見を聞きそれぞれの長所を活かせる工夫をしています。(保育士・工作、美容師・散髪、調理師・食事づくり等)	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	上記のようにそれぞれの資格や職歴を活かした分野で活躍できるようにしています。自慢できる職員です。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	1対1はもちろん、ご家族の協力もいただき受け止めています。どんな些細な事も聞き逃さず介護にいかして生きたいと思えます	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	最初から皆さん本音を言い出し辛いと思いますので少しでも話しやすい良い雰囲気作りに心がけています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の話に耳を傾けず何が必要としているかを判断していません。本人を一番知っている家族にもいろいろ話を伺い皆で話し合いサービスに反映しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その方の入居前の生活歴を十分把握した上でサービスの開始をしています。普段の生活の中でもその人らしさを引き出す努力をしています。いきなりでなく徐々に心をかけています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日が喜怒哀楽だらけです。毎日笑って楽しければそれが一番いいですが、悲しみや怒りも一緒に受け止め、涙を流し、怒りを沈め、波乱万丈な一日を入居者と共に過ごします。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族の気持ちになって介護しています。楽しい報告をした後のご家族の笑顔は私たち介護するものの励みになります。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	何よりもご家族の愛情が本人にとっては一番だと思っています。それをサポートする気持ちで頑張ります。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族はもちろんいろいろな方が面会に来てくださいます。併設の特養の入所者やデイサービスの利用者も遊びに来られます。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い入居者はもちろん普段は話をしないような入居者も職員が間に入り共通の話題を作れば自然に打ち解け笑顔で会話が弾みます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された方の近その後の況報告はもちろん退院された後のケアも十分にしています。ご家族は元気になったときのためにと入居申し込みもされています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中から本人の希望や意向を聞き出しています。又普段の生活の中でも見逃しません。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人はもちろんご家族の協力をいただき把握に努めています。普段の何気ない会話の中でも自分の興味のある話題になると皆さん顔つきが全然違います。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	無理強いをせず本人に出来ることをしていただきながら一日を過ぎしていただいています。又興味のある態度を示されたときには積極的に参加していただきます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	より本人のことを考えた計画を立てているつもりです。介護員のための計画でなく利用者本位が一番です・		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランについては半年後とにみなおしています。また変化が応じたときはその都度対応しています。モニタリングについては3ヶ月ごとに行い、カンファレンスも定期的と随時で行なっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人や家族の言われた事は連絡ノートにきちんと記録して職員で気づいた事もメモし見直しに活かしています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	たとえば足がもう少し動けばなーといわれる入居者には近くの併設するデイサービスに散歩をかねてお連れし、マッサージの機械を利用していただき少しでも足が動くようにしています。また夏祭りへの参加や施設のバスを利用するの全員そろっての外出もしています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年4回の避難訓練は警察や消防署の方々のご協力いただいています。又中学生の職場体験の受け入れや各種ボランティアの受け入れも積極的に行なっています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の自立支援に向けて他サービス事業者との連携をとりながら調整していきます。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	平成19年に地域包括支援センターが設立され運営推進会議等を通してより深く結びついていきたいと思っております。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医で定期的な受診をし健康管理に努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の使用に係る同意書を入居者全員分きちんととり、又介護のいかなる場面においてもプライバシーをきちんと守り個人の尊厳を重視しています。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	話題を本人の好きな事に持って行き、気分が乗ってこられた時いろいろ話を聞くと皆さん思いを語ってくださいます。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員中心の介護でなくまず入居者がどのように過ごしたいかを尊重し、自由でありのままにゆったりと過ごしていただいています。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	園外活動や誕生会にはおしゃれやお化粧品をして出かけます。皆さんとてもきれいです。髪も本人が希望されたり、ご家族が切って欲しいと言われれば切ります。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜が手に入ると入居者にどのようにして食べたいか何うとちゃんと好みの料理を言われますのでその通り料理します。盛り付けや料理を手伝ってくださいます。誕生会ではその月の誕生者の好物を作ります。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶の時間には何が飲みたいか聞いてお出ししています。飴や黒砂糖も常備しています。お酒やタバコは今の入居者は好まれていません。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁されたときはさりげなく処理し、ご本人の自尊心を傷つけないようにしています。又、その方の排泄パターンをきちんと把握し時間を見て声掛けや誘導をおこなっています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日のバイタルチェックや様子観察をきちんとし本人の希望を伺ってから入浴していただきます。血压が高めの方は声かけて早めに上がっていただき、入浴できそうにない方にはやんわりと声かけしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	声かけしないとそのままその場にいらっしゃいますので食堂で居眠りされていらっしゃる方には部屋でゆっくりしましょうかと声かけています。休むのが嫌な方にはテレビを見てくつろいでいただき、その方に合った声かけをしています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味をお持の方は居室いっぱいの作品をかざられています。又趣味のない方も家事において自分にしか出来ない仕事をお願いし自分の存在がここには必要だと認識していただいています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理のできる方は自分で買い物できるくらいのお金のお金をご家族の了解のもと持たせています。地元の農家の方が野菜や花を売りに来られたときに喜んで買われます。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その方の個性に合わせて散歩にお誘いしたり畑の草むしり、花の植え替えをしていただきます。職員と一緒に墓参りや外食にも出かけます。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	その月に合った行事を組んで(4月は桜、2月は節分等)体調をみて全員で行けるようにしています。ご家族も参加されとても楽しいです。ご家族と食事に出かけられる方もいらっしゃいます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が家族に電話したいと言われれば電話をかけ取り次ぎます。又毎年入居者手書の年賀状はご家族に好評です。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族同士も交流があります。居室だけでなく食堂で他入居者と触れ合われる機会も沢山あり本当の家族のような雰囲気です。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会に職員が参加し、スタッフ会議で報告しやかに身体拘束のない介護が必要かを再確認しています。	○	定期的な勉強会を開きたいです。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけずにいつでも開放しています。入居者及び面会の方、お客様がお見えのときは玄関で心地よい鈴の音が鳴り教えてくれます。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーはきちんと配慮し排泄中、入浴中はきちんとドアを閉め、入室の際はノックしています。9名の所在を常に意識し一人の時間を大事にしながらも声かけはきちんとし何かあったときはすぐ対応できるようにしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁は昼間は入居者も職員といっしょに使用しています。夜間は鍵得をかけ保管しています。薬や薬剤についてもきちんと鍵のできるところに保管し危険防止に努めています。その他個別にお持ちの物品等で危険がないと思うものは本人で管理しておられます。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各マニュアルはありますが実際に実行することが大事と思い、スタッフ会議や職員研修会で応急処置の講習会を開き職員全員で参加しています。又、必要な時インシデント、事故報告をあげ、リスクマネージャーを中心に対策を検討し次の事故防止につなげるようにしています。	○	これからもどんどん参加します。百聞は一見にしかずです。実際の経験が必要です。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	松恵園全職員で参加する応急処置の研修会はもちろん参加し、看護職員を勉強会に招いて急変に対応できる体制も確保しています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回の特養との避難訓練の参加はもちろんグループホーム独自でさまざまな条件を設定した避難訓練もしています。	○	今後具体的に記録し残したいと思います。又運営推進会議や地域の会合に参加しお話ししたいと思います。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	個人個人の生活暦、病歴をきちんと把握した上で起こりうる様々なリスクに対処する旨をご家族と日々話します。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや様子観察をきちんとし主治医や協力病院、家族との連携を取りながらすばやく受診し対応しています。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の薬のリストを作り全職員が把握しています。又薬の服薬についても必ず確認し、副作用がでたときは主治医に早めに相談できる体制を整えています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	緩下剤の使用はしていますが極力最小限に抑え自然の排便を促しています。毎日の申し送りをきちんとします。牛乳や繊維の多い食品を料理に取り入れています。毎日の散歩や体操もかかせません。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立の方には声かけし、一部介助の方は出来ることはしていただき見守りしています。全介助の方は毎食後きちんと介助し、衛生を保っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの嗜好をきちんと把握し、その方に応じた食事量を摂取していただいています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルもあり、予防委員会も立ち上げています。定期的に勉強会を開いています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は毎日乾燥機にかけて消毒し、まな板はハイター消毒しています。食材についても賞味期限を確認し期限内に使い切っています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物入り口や玄関には季節の花を飾り心温まり入りやすい環境にしています。常に明るい玄関を心掛けています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しについてはカーテン等で調整。テレビの音は入居者に確認しながら調整しています。食堂にはプリン空き瓶を使った一輪挿しに季節のちょっとした野の花を入居者といっしょに飾ります。グループホームらしいとご家族にも好評です。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3箇所ソファを設置し入居者同士が語り合ったり、一人になれる場所を設けています。また食堂の片隅に畳を設置し洗濯物をたたんだりゆっくりくつろいでいただいています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の中には仏壇を持ち込んだりされたりしています。居室いっぱいには花や趣味の道具を置かれ心地よく過ごされています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の掃除のときは窓を開け、空気の入替えをしています。温度計と湿度計を設置し毎日確認し快適な温度で過ごしています。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺はもちろん室内散歩をされる入居者にも途中にソファを設けて休憩していただくように配慮はかせません。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員それぞれが十分に理解したうえで工夫しています。たとえば居室のわからない方にはフェルトでかわいく名前を貼る工夫をすると喜んで居室に帰られます。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関横にはベンチを置き天気の良い日には外でお茶を飲んで過ごします。外で飲むお茶は格別おいしいです。庭には小さいですが畑もあり季節の野菜を収穫し料理にも使います。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ほのぼのと言う名前の通り、職員と入居者が家庭的な雰囲気の中で一緒に寄り添い生活し、毎日笑顔がいっぱいです。入居者の明るい笑顔が私たちの財産です。